

職務経歴書

2025年 9月 30日

山口 理恵子

経歴要約

熟練の看護師として豊富な経験と専門知識を活かし、病棟看護から多職種リンクまで幅広い役割を担ってきました。BLSやACLSの資格を持ち、救急医療における蘇生技術にも精通しています。国家公務員共済連合会 横須賀共済病院では、安全管理委員会に在籍し、医療安全に熱心に取り組みました。神奈川県立がんセンターでは心肺蘇生のエキスパートとして、また救急医療検討会議のメンバーとして、職員に救急医療を教育。看護研究や後輩育成にも携わり、患者さんのより良い療養環境の提供に邁進しています。

活かせるスキル・経験

BLS

ACLS

Registered Professional Nursing

看護婦免許

職務経歴

横浜市立大学医学部附属病院

1994年4月～1999年3月

事業内容：病院 手術室勤務

📌 主な実績

横浜市二次救急、大学病院手術室勤務。チーム制で主な診療科担当制度があり、在職期間中、主に第二外科、口腔外科、眼科を担当。第二外科では生体肝移植を立ち上げから八例目まで、チームで協力して成功を収めた。その他、大学病院ならではの困難症例に日々携わった。口腔外科では、顎骨手術を担当医と協同し主導した。眼科は年間3500例以上の手術実施。ライブサージェリーを医師と企画、実施した。眼科担当のエキスパートナースとして、メンバーの教育をし、後輩育成に尽力した。

豪州カリタスクリスティホスピス

1999年7月

事業内容：ホスピス

📌 主な実績

◇ 1999年7月

ホスピスケアでの理念、教育、患者看護の基本について、その概念から実施に至るまでの全般を学習。実際に隣接のホスピスでケアを実施し、現地スタッフと協力して、各国からの様々な背景や人種の患者ケアを担当した。

豪州セントビンセント病院メルボルン

1999年7月

事業内容：病院

📌 主な実績

◇ 1999年7月

急性期、慢性期、地域ケア、依存症（アルコール、薬物）看護、小児がん、訪問看護、がん看護病棟に在籍しながら研修実施。週に一度、現地スタッフとのカンファレンスがあり、各専門家や異なる職種が集まる中で、欧米と日本の医療、看護について検討した。がん看護病棟では、次のベツレハムホスピスのスカウトを受けて、転属となる。

豪州キャルバリー・ヘルスケア・ベツレハム

1999年8月～2000年3月

事業内容：ホスピス

📌 主な実績

がん終末期看護を実施。現地スタッフと協力して、毎日患者看護を実施。終末期を家族と離れて過ごす患者に寄り添う心を、スタッフと毎日醸成した。週に一度、その週に亡くなった患者のデスカンファレンスがあり、担当患者の最期が望ましい時間であったのか、最善の看護を提供できたのかを検討し、死を悼んだ。各患者が自分らしく過ごせるように、その人の人生を考慮し、メイクアップセラピーや、アニマルセラピーなどを取り入れていた。

菊名記念病院

2000年6月～2001年12月

事業内容：病院

📌 主な実績

◇ ICU/CCU ,脳外科/外科病棟

横浜市港北区で当時二ヶ所の、急性期救急受け入れ病院。冠動脈疾患や、外傷、脳外科等の急性期集中看護を提供。10床中、日勤では2人、夜勤では4人を基本受け持ちとした急性期・周手術期看護を実施した。集中看護を経て病棟看護に移る患者をトータルで学ぶために、病棟に移動を希望した。

外科・脳外科病棟に転属。初の病棟勤務で、自身初の意識下の患者看護を担当した。急性期での経験を活かし、急変察知や対処、または看取りも初めて経験。経験の浅い看護師から中堅までが多くを占めるスタッフ層の中で、急性期看護を知る人材はとても少なく、初の病棟勤務だが、後輩育成もすることになった。地域に根ざす医療を提供する病院で、病める人々の看護に携わった。

横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター

2001年1月～2008年8月

事業内容：三次救急病院

✔ 主な実績

◇ 手術室、消化器病センター/IBDセンター/内分泌糖尿病センター 2001年1月～2008年8月

三次救急受け入れの手術室では、予定手術のほかにトラウマ手術、多発外傷、交通外傷、熱傷患者等の緊急手術が多数あり、ここでは診療担当制度がなく、全科の手術を毎日受け持った。IBDセンターでは10代、20代の患者も多く、日本各地から難病患者が集まった。内科と外科があり、治療について多くの学びを得た。消化器は得意分野となり、内分泌糖尿病患者の日常生活の改善、QOL向上を目指して日常生活援助に尽力した。病棟リーダーとして、チーム看護力の底上げを担う。

米国NY州 Jeffrey Ahn MD - Park Avenue Medical Center

2010年11月～2011年12月

事業内容：クリニック、日帰り手術（救急搬送はNew York - Presbyterian / Weill Cornell Medical Center), 手術室、日本人窓口

✔ 主な実績

◇ RN (Registered Professional Nurse) 2010年11月～2011年12月

耳鼻咽喉科のクリニック。午前は外来、午後は手術を実施。アレルギー減感作療法はRNの主な任務であり、専門的判断のもとに治療を提供した。日本人窓口となったことで担当患者も多く、現地での手術や治療に不慣れな日本人に、そして世界中のあらゆる人に多くの治療を提供した。一人だけ急変し（肥大型心筋症の既往あり）、連携病院のERに搬送したが、ERスタッフと連携し、早期退院を図った。就労ビザが降りずに帰国することになり、退職。

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

2012年3月～2016年8月

事業内容：外科病棟

✔ 主な実績

◇ 病棟看護師、チームリーダー 2012年3月～2016年8月

がん拠点病院である横須賀共済病院は、三浦半島で唯一の救急総合病院であり、手術、化学療法、救急受け入れ数もとても多い。チームリーダーとしてスタッフを育成。安全管理委員会に在籍し、病棟でのKYTトレーニングや多くの勉強会を主催した。「口腔ケア実践後の変化」について看護研究をチームで発表。消化器外科疾患患者と口腔ケアの関連性について研究し、在院日数短縮の取り組みを発表した。米軍横須賀基地と連携し、アメリカ人の治療にも大きく貢献。ICや意思決定支援も、通訳や受け持ち看護師として取り組んだ。

神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

2016年9月～在職中

◆ 主な実績

◇ 胃食道外科/消化器肝胆膵内科、頭頸部外科/泌尿器科 2016年9月

緩和ケアリンクナースとして、緩和ケアチームと連携し、「がんと診断された時からの緩和ケアの推進」について、スタッフにACPの教育を行う。受け持ち患者をはじめ、多くの患者の意思決定支援に積極的に関わる。日本がんサポーターズケア学会に参加し、経口摂取困難でも摂取可能な経口栄養食を発見。NSTチームと連携し、病院に導入したため、院内で多くの診療科に利用されている。救急医療検討会議のメンバーであり、BLS,ACLSのアルゴリズムに基づいた救急蘇生を病院内で教育活動。心肺蘇生や急変時対応に自信のないスタッフが多いため、e-learningを作成し、配信した。

患者の実際の声を元に、「頭頸部がん患者が化学療法を受ける際の、頭部脱毛体験について」をテーマに看護研究を単独実施。集中治療を受ける患者のサイコオンコロジーについて研究、発表実施。

自己PR

現在、大学に在籍しており、日々の学びを通じて知識を深めることに情熱を注いでいます。医療だけの世界に留まらず、あらゆる学問から得る学びは、看護師として、そして人間としての大切な糧となります。自身の強みとして、明朗であることと、知識に基づいた判断力と迅速な行動力、手術室で養った集中力があります。これにより、難しい局面でもチームでコミュニケーションをとり、複雑な課題に対しても協力して効果的に対応することができます。周囲の協力やサポートを得ながら、お互いに高めあえる関係を築いていきたいと思っています。